

環境改善へ科学的根拠示す

全国約10万組の母子の生活環境を調べ、子どもの健康や発育への影響を研究するエコチル調査の一端を富山大医学部で担う。同大は北陸唯一の拠点で「子どもたちにとってより良い環境をつくるため、科学的な根拠を示していきたい」と力を込める。

エコチル調査は環境省が2010年度に始めた大規模調査で、富山を含め全国に15の拠点がある。質問票での調査を定期的に行い、母親の妊娠時から出産、子どもが18歳になるまでの環境を追跡する。

北海道小平町出身。北海道大医学部を卒業後、精神科医の道に進む。10年ほど道内各地の病院で働く中、治療を終えても再び病状が悪化する人々の姿を目の当



人さのけ

エコチル調査富山ユニットセンター長として
子どもの健康や発育を研究する

よしおか えいじ 吉岡 英治さん

たりにした。精神疾患は家庭や職場などの環境の影響が大きく「診察室の外に出て、患者を支える社会的な支援を学びたい」との思いが募っていた。

30代半ばで大学院に入り、公衆衛生学の研究を始めた。専門はメンタルヘルス。2000年代にはインターネットで知り合った人々が、集団で練炭自殺をする事件が相次いだことから、当時の報道を基に自殺手段の社会的背景を探る研究などに取り組んできた。

昨年10月に富山大学術研究部医学系公衆衛生学講座の教授に就任し、今春から2代目のエコチル調査富山ユニットセンター長を務める。全国から集まったデータを分析したり、富山で独自の調査をしたりして、身の回りの化学物質や生活環境が子どもの健康に及ぼす影響を調べる。メンタルヘルスの側面から食べ物や運動習慣にも着目しており、「お母さんたちが知識を身に付け、子どもたちにより良い環境を提供する手助けになれば」と語る。

富山市在住。お気に入りスポットは美術館や図書館が入るTOYAMAキラリ（西町）で、建物から立山連峰を眺めるのが楽しみ。56歳。

（社会部・山崎響子）